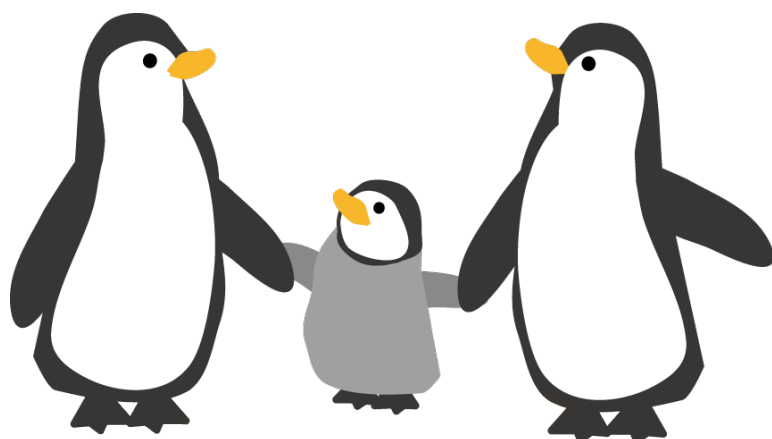


# 平成29年度

(応募総数 800 件)



チーム名

チームくぼた

最優秀賞

参加者：お父さん・お母さん・子（小学2年生）・子（年長）

〈読んだ本〉

〈本を書いた人〉

ちょっとだけ

瀧村 有子／作・鈴木 永子／絵

〈感想〉

- ・わたしも弟がいるのでなっちゃんの気持ちがよくわかりました。ママをいそがしくさせないように自分1人でがんばるなっちゃんなら、やさしいお姉ちゃんになれると思います。弟が生まれた時、わたしはとてもうれしくて赤ちゃんの弟がとってもかわいくてずっといっしょにいました。でもわたしもママにだっこしてもらいたいときがあったのでそのときは、だっこして、と言いました。だっこされたときのうれしい気持ちは、ちょっとだけじゃなくていっぱいになりました。なっちゃんもわたしと同じ気持ちになったのかな。（遥花）
- ・ばくは赤ちゃんだったから覚えてないけど、今はねえねと遊べるのがうれしい。赤ちゃんも大きくなったら、なっちゃんと遊べるね。（悠ノ介）
- ・なっちゃんが頑張ってること、きっとママはちゃんと見てたんだろうね。ママもなっちゃんをずっと抱っこしたかったんじゃないかな。この本を読む度に、はるちゃんとゆうちゃんのことをもっともっと大切にしたいよ。（お母さん）
- ・家族構成が同じだったので、悠ノ介が生まれた当時を思い出しました。遥花からすれば、それまで独占していた親を取られ、寂しい気持ちもあったと思いますが、母親への気遣い、弟への愛情等は、作中のなっちゃん同様だったように思い出します。今回、この「うちどく」で良い機会を頂いて、当時の様子を成長した子供たちと話す機会を得て、当時は幼く知ることができなかった「お姉ちゃんのお気持ち」を、悠ノ介も知ることが出来て、大変良かったと思います。（お父さん）

〈「うちどく」をやってみた感想〉

3年前にこの本を初めて読んだ時、読みながら号泣、その後も読む度に涙が出ます。まだ2歳になる前にお姉ちゃんになった上の子にさみしい思いをさせてしまうんじゃないか・・・当時すごく心配していた私に、子供達2人のこの感想文を読ませてあげたいです。私達親にとっても、子供達にとっても、みんながお互いの気持ちを知ることができた、とても良い機会だったと思います。

チーム名

すまいる

中央図書館長賞

参加者：お母さん・子（小学1年生）

<読んだ本>

<本を書いた人>

おねえちゃんって、ほーんかつらい！

いとう みく/作・つじむら あゆこ/絵

<感想>

- ・本屋さんで何を读もうか一生懸命に選りこの本に決めた娘。タイトルを見て、つらいの？と娘の気持ちにドキッとしつつ購入しました。日々お姉ちゃんとして頑張っている姿。お姉ちゃんとしてのプライド。色々な姿が書かれ、娘の気持ちと照らし合わせながら私は読みました。元気いっぱい、悪気ない妹はお姉ちゃん大好き！まさに我が家と同じです。いつもお姉ちゃんとして妹を見てくれる娘に“ありがとう”と思える1冊でした。（母）
- ・わたしが、おねえちゃんだからきになったので、このほんにしました。わたしとおこるところがおなじだとおもいました。（子）

<「うちどく」をやってみた感想>

皆で同じ本を読む。絵本はいつも読んでいますが、児童書は初めてでした。皆で、どう思った?! 等会話もはずみ、他の本にもチャレンジしようと思います。もう児童書も読めるんだね、と主人と驚き、娘の成長も感じる取り組みとなりました。

チーム名

晴空

優秀賞

参加者：お父さん・お母さん・子（小学1年生・4歳・0歳）

<読んだ本>

<本を書いた人>

最後だとわかっていたら

ノーマ・コーネット・マレック/作

<感想>

・ねえねとケンカをしないで、いつもなかよしでいたいなあとおもった。（まお）

・まおとたかにもっともっとやさしくして、たくさんあそんであげたいなあとおもいました。

（みゆ）

・大切な人を亡くして、後悔しない人なんていないと思います。毎日の中で、朝も“早く起きなさい！！”とおこることからはじまることも多く、バタバタしながら”いってらっしゃい”と見送り、あとからなんであんなに怒っていたのかと反省したり、本当にいろいろな大切なキモチをあらためて、考えさせられました。（お母さん）

・ママに教えてもらった本なのですが、家族のことをより一層、愛おしくなるような本でした。

（お父さん）

<「うちどく」をやってみた感想>

読み終わってから、まだ子供たちには少しむずかしいかもしれないとおもい、“もし明日、家族の誰かが死んじゃったらどんなキモチ？”とおきかえて話をしたところ、家族全員で泣いてしまいました。読んだことで、本当にみんなが優しいキモチになれたとおもいます。

チーム名

チーム つる

優秀賞

参加者：お父さん・お母さん・子（小学1年生・2歳）

<読んだ本>

<本を書いた人>

くろくとふしぎなともだち

なかや みわ/作・絵

<感想>

・いろいろな乗り物がでてきておもしろかったし、その乗り物が全部粘土だったのがびっくりした。

（志乃）

・お父さんが作っている新幹線も粘土で作るんじゃったら簡単なのにね（志乃）

・クレヨンで街が作れるなら、お母さんは旅行に行きたい場所を描いて旅行している気分になりたいな。粘土で飛行機を作って飛行機に乗って行くの（お母さん）

・クレヨンを見て「アッタ！！」乗り物を見て「アッタ！！」（侑哉）

・欲しい物が全部粘土で作れたらいいのにね。（お父さん）

・クレヨンの黒色ってあんまり使わんと思っていたけど、黒って意外と使っているし大事の色じゃね。（お父さん）

<「うちどく」をやってみた感想>

読み終わって、クレヨンで好きな街を描いたり、粘土で作ってみたいものの話して盛り上がりました。自分のクレヨンは何色が一番小さくなっているのかを見ていました。

（むらさき色とはだ色が一番小さくなっていました。）

チーム名

チーム みしま

優秀賞

参加者：お父さん・お母さん・子（小学3年生・1年生）

<読んだ本>

<本を書いた人>

おしりたんてい むらさきふじんのあんごうじけん

トルル/作・絵

<感想>

- ・かぎづめのシロがむらさきふじんにへんそうしていたのがばれておしりたんていがへをこいたところがおもしろかった。（しょうた）
- ・おしりたんていが、いろいろななぞなぞを解明するところや、めいろとかがあってストーリーを読みながらめいろもできるっていうところが楽しかった（麻人）
- ・かわいらしいさし絵が、気持ちを盛り上げてくれました。細かいので、あんなところにこんなものがあったね、なんて話しながら見るのが楽しかったです。（お母さん）
- ・読んでいるとスイートポテトが食べたくなりました。謎ときも迷路も楽しかった（お父さん）

<「うちどく」をやってみた感想>

共通の話題ってあるようでないもんだと気付かされました。たった一冊の本でこんなにも会話が  
増えるのかとびっくりさせられました。親が読んで感想を伝えるだけで、とてもうれしそうにして  
くれたのが印象的でした。

チーム名

本大好き家族

優秀賞

参加者：お母さん・子（中学1年生・小学4年生）

〈読んだ本〉

〈本を書いた人〉

わたしと小鳥とすずと

金子 みすゞ／著

〈感想〉

- ・ 山口県の有名な詩人なので、知ってほしいと思いました。（お母さん）
- ・ その本のなかに「こだまでしょうか」というシーエムでながれた詩が入っていたので、「シーエムでながれた詩も入っているのだな。」と思いました。（咲蘭）
- ・ 詩のなかに「さかむけ」という詩があったので、とてもおもしろいと思いました。（蓮）

〈「うちどく」をやってみた感想〉

うちどくをするまで、お兄ちゃんとのきよりが、すこし遠くなっていた気がしたけど、うちどくをやってみて、お兄ちゃんとのきよりもちかくなったと思います。